

秋の学期の抱負とビジョン



柴田いづ

(一) はじめに——一学期の反省——

集団生活に第一歩をふみだした幼児たちにとって一学期の経験は最も重要であると考えます。私は、二学期のビジョンを考えるとき、やはり一学期の幼児らの姿をもう一度みなおして、どのような経験を重ねてきたか、なにに興味をもち、どんなふう仲間同士あそべるようになってきたのか、ふり返ってみたいと思います。それと同時に教師として、どういう子どもに育てたかったのか、教師の描く幼児像と実際の幼児の姿とを考え合わせ、二学期のビジョンの基礎にしてみたいと思います。四月の幼児たちを迎えて、第一に考えられることは、「ひとりひとりの幼児たちが、安定感をもって、自分の意志でたのしくいろいろの活動に参加できるように」というねがいでした。そのために、

(1) ひとりひとりの幼児のもっている感情を実際の場面のなか

で、どのように受けとめながら感情を安定させていくか、ということを第一にとりくんできたのです。

(2) つぎには、ひとりひとりの幼児が、入園まえに、すでにしていなければならなかったいろいろな発達の課題のなかで、達成されなかったものを充足していくことに指導の重点をおいたのです。このことは、情緒面を中心とはしているが、身体的な面、人間と人間との関係の面、認識や感覚的な面にも充足していかななくてはならない面が多くあります。そのためには、幼児の退行現象を認めながら指導していくという、治療的な活動でもあり、そういう場面を大切に考えていきました。

(3) それとともに幼稚園における生活の仕方、つまり、ひとりひとりでする活動や、グループでする活動、みんなでする活動などのとりくみ方や内容にも、理解できてきて、そのたのしさも味

わうようになり、幼稚園での一日の生活も、教師との人間関係、友だちとの人間関係のなかで、一応の満足を得るようになりつつあるということ——また、その方向へ努力してきたといえます。

(二) 秋の学期のビジョン

これまでの一学期では、幼稚園教育に対する、どちらかというど、教育以前の問題についての指導といえますが、二学期では、幼児の生活の充実ということを中心に行きたいと思えます。そのために、

(1) 感情生活の充実と、創造的な活動をはかりたい。
(2) みんなでたのしくあそべ、役割的なあそびを十分にさせてやりたい。
(3) 十分に身体を使って、大きな運動を、グループでさせてやりたい。

(4) くふうして、いろいろな活動にとりくみ、熱心して十分な時間をかけ、最後までやりとげていくようにさせたい。——と思うのです。そこでこれらについて、簡単に活動を中心としてのビジョンをあげてみたいと思います。

(1) みんなで協力し、製作活動をたのしませたい。

幼児は製作がすきであり、そして幼児のイメージはどこまでも広がっていきます。でもひとりひとりの活動では、作品の大きさ

や内容において限度があるように思われます。だから、みんなのイメージをあつめ、そして協力しあって、二学期は大きな製作を——と考えるのですが、「さあ、これだなにができるでしょうね、みんなで作ってみましょうか」といったさそいかけや、興味づけをするのでなく、いろいろなものが、豊富にあって、つくりたい、ためしてみたい——といった気持ちに思わずなるような、そんな部屋があつたらと思うのです。自由に安心して使える材料、幅広く活用できる素材などが十分あって、幼児たちの選択にまかせ、自分のやりたいイメージに向かって、熱心にとりこんでいけるそんな幼児の姿を描いてみるのです。また、あるときは、園庭にもちだして、まほうのお城などができ、幼児の背をこすような高さ、つきからつきへとまほうの部屋をつないで、色セロファン窓、可愛い扉などもできて、どこからでもはいれ、くぐったりもできるそんなお城をつくってあそべたら、どんなにたのしいでしょう。固定遊具の間に、みんなで作ったふしぎなおうちや、のりものなどおいたら、また園庭のふんいきも、そして幼児らのあそびも変わってくることでしょ。

(2) 感情を十分に表出し、創造的な劇あそびをさせたい。

幼児は感情が安定してくれば、積極的に感情や感動をすなおに表出することができるようになってきます。このような感動の表出は、それが何かを媒介として表現されれば少し大げさではあり

ますが、幼児の芸術にもなると思うのです。このような芸術的な活動のなかで、幼児の活動を、総合したものととして幼児からできてきた劇あそびをさせてやりたいと思うのです。そのなかで、幼児の感情の満足、創造性、そして協力するという態度をつけてやりたいと思います。でもそれは、ばらばらであって、学級全体としてまとめることは、二学期ではむりかもしませんが、子どもたちで相談してつくった合奏や、即興的なうた、そして子どもらしい動きを中心としてたとえ騒々しくなっても大いにやらせたいと思います。テレビなどにでてる、ぬいぐるみ等の等身大のものや、動くペープサートなどおもしろ味があつて、変化のあるものを使い、幼児たちに自由に演出させてやりたいと思うのです。そして園庭にもとびだして「おにさんこちら」「りすちゃんもおいでー」とたのしんで呼びあつている幼児らの会話をできるだけ多くテープにおさめてやり、みんなで聞いてみたり、迫力ある動作や表情も、みんなで作ったものを利用するなかで、のびのびと表現させてやりたいと思います。また舞台なども固定しないで、それぞれの保育室を利用し、動物のうちや山などに想定し、思い切った構成のなかでグループ毎に「おとなりのとんがりやまへいきましよう」とか「くまさんのおうちはここですか」などとあそびながら簡単なストーリーなども、幼児たちでつくっていったらたのしいでしょう。

(3) 戸外でのびのびとあそばせてやりたい。

幼児は、大きな筋肉の運動をよろこび、十分に、全身的な運動をしたい要求をもっています。何の制約もなく、のびのびとびまわりたい要求を十分に満足させてやりたいと考えます。ねころんだり、ころがったりできる美しい空気の広い原っぱへ行つて、そして雑草のなかに咲く野菊やすみをみつけてつんだり、草すもうをしたり、また大きな声を張りあげてかけっこをしたりして、思う存分あそべる機会を多くもってやりたいと考えます。園内でも総合的に体育的なあそびの経験はしますが、やはりこの好季節は、園外にでて自然のなかでのびのびと遊ばせてやり、教師のひくアコーディオンやハーモニカなどにあわせて、大きな木の下でフォークダンスやうたなどをうたつたのしみたいと思います。そして「あつあんな虫がー」「あれ、なーに？」などの質問や発見——幼稚園では経験できないすばらしさのある園外こそ、幼児らの要求を満足させ、人間的なふれ合いもいっそうこくなく、総合的な幼稚園のねらいが達成されそうな気がいたします。

以上秋の学期の幼児の姿を描き、豊かな内容をもりあげ、「大いにどの子ども力をだしていろいろの活動にとりくめる幼児たち——」と（実際には不可能な面があるかもしれませんが……）すこしでも目標に近づきたいとねがい、現在の抱負を述べてみました。

（四日市市立富田幼稚園）